活動報告

| | |
|---|---|
| 団 体 名 | まんまる高知 |
| 活 動 名 | ボラバスによる被災地支援をきっかけに高知の防災力を強化する事業 |
| 活動期間 | 2019/12/142019/12/19 |
| 活動の成果 | 第１便では被災した農家のりんご畑の泥出しを行う農業ボランティアを、第２便は被災者の交流拠点や相談窓口となる地域サロンの運営補助と災害復興応援会議の運営補助を中心に、活動を行なった。被災地に対しては、災害ボランティア活動を行うことで、被災地の復旧・復興を支援すること。災害ボランティア参加者に対しては、参加者自身の防災意識と災害対応力の向上を図ること。高知県に対しては、被災地や災害ボランティア団体との交流を継続することにより、本県が被災した時に他県から支援してくれる仲間を増やすこと。いずれのねらいも、それぞれ概ね計画どおり達成できたと思います。 |
| 寄付者へのメッセージ | 災害ボランティアにより被災された方のお役に立つというだけではなく、次の災害に備えるための防災意識啓発につなげたい、というのが今回のプロジェクトの趣旨です。<br>皆様のご支援によりまして、参加したメンバーはそれぞれに気付きを得て、防災学習会の開催に繋がることができそうです。<br>本当にありがとうございました。 |

（活動のようす）

令和元年12月20日　参加者一同

災害と防災がつながるプロジェクト　活動レポート（速報版）

～台風19号被災地支援　災害ボランティアの活動～

3割程度の住民しか残っていません。そこで、一度自宅を離れた人も気軽に立ち寄れる居場所にしたいという思いで豊野地区住民自治協議会やボランティア団体が協力して立ち上げたものだそうです。訪問した際にはオープンから日が浅いこともあり、周知が行き届いていない状況でした。毎日10:00から17:00までを運営していますが、多い日で18人の参加（独居高齢者等）に恵まれています。

＊内容

・6名の登壇者によるリレートーク・・「在宅避難者支援」「住民自治活動」「子ども支援」「ボランティア活動」「JA の取組」「地域目線の支援活動」に携わる各々の代表者らが災害時どういう活動をしたか、活動する上での想い・今後の課題は何かを発表しました。被災現場で活動している方々の熱いトークで会場は熱気に包まれていました。

・グループセッション・・「住民同士のつながり」「被災地の気になる人たち」「被災者に寄り添ったNPO・ボランティア活動」「生業の再生復興」という4つのテーマの「これから」について、住民と行政と支援団体が膝を突き合わせて意見を出し合っていました。

・最後に、行政とボランティアと社会福祉協議会が連携する復興協働会議の発足について、山室さんから提案がありました。

＊居場所（サロン）運営

被災者の生活再建に関わる情報提示や温かいことつとお菓子などの環境が整っていましたが、訪問者が少ないのです。一人でも多くの人に活動を知ってもらい、足を運んでもらえるよう、私達は周辺地区を回り、案内チラシの各戸配布作業に徹しました。ぬくぬく亭周辺の赤沼/豊野地区は住宅1階部分が浸かっており、球間は人気がありませんでもらえるよう、私達は周辺地区を回り、案内チラシの各戸配布作業に徹しました。ぬくぬく亭周辺の赤沼/豊野地区は住宅1階部分が浸かっており、球間は人気がありませんでもらえるよう、私達は周辺地区を回り、案内チラシの各戸配布作業に徹しました。ぬくぬく亭周辺の赤沼/豊野地区は住宅1階部分が浸かっており、球間は人気がありませんでもらえるよう、私達は周辺地区を回り、案内チラシの各戸配布作業に徹しました。ぬくぬく亭周辺の赤沼/豊野地区は住宅1階部分が浸かっており、球間は人気があります。







＊主な運営支援内容

公場設営、誘導、記録、WS ファシリテーター役

【最後に】

長野県 NPO センターの皆様、その他、交流させていただいた皆様、誠真の中、本当に快く対応していただき一同、感謝しています。そして今回のプロジェクト企画にご支援いただいた皆様のお陰で貴重な経験ができましたことを深く御礼申し上げます。

水が引かず、発災直後は、泥水の中をかき分けて進み、水の廻口を作ることから始めたそうです。水が引いてからは、りんごのキが腐ぶないよう、根元から半径2mより近くに根刈した泥を堆先的に除去していき泥ました。令和元年12月14日で農ボラプロジェクト1期としての活動は一旦終了され、次は市の委託業者が重機を使い、集めた泥を畑から搬出する作業に移ります。



被災状況をお話してくださる農家さん（右側ベルメットの男性）。作地あと等ったりんご色いただきました。甘くておずずしくて本当に美味しいです。

②毎日新聞記者との意見交換

発災直後から長野県内において被害状況の取材をし続けてこられた島袋記者にお話を伺いました。



令和元年12月20日をもって、長野県内の避難所は閉鎖したため、被災された方は、応急仮設住宅やみなし仮設住宅(賃貸マンション等)、親戚宅等へ移動しています。島袋記者が驚いたのは、感傷していたよりも、被害を受けた自宅で生活を続けている方が多いことだそうです。特にペットがいる家庭では、ペットの鳴き声などを心配し、避難所やみなし仮設住宅に入居することを拒め、1階が浸水した家の2階で生活しているっしゃる方が多いらっしゃるそうです。キッチンが被災している住宅が多いため、調理ができず食事面でお困りになられるのではないかと伺っており、健康面の一層のケアが必要だと感じました。

被災住宅の泥出しボランティアは、まだ継続中です。一見泥出しが完了したように見えても、床を剥がせば床下の泥出しも必要だった、というように、被災者自身が気付かない被災箇所があります。ニーズ把握には専門知識のある方の関与が必要です。また、床を剥がすのは素人では難しく、専門的な技術を持ったボランティア等に対応してもらう必要がありますが、これを担うマンパワーが不足しています。

災害ゴミの問題も深刻で、行政が指定した仮置き場以外にも、住民が各々都合のいい場所にゴミを出し、至るところにゴミの山ができてしまったそうです。(勝手仮置き場)と呼ばれています。」これをボランティアがマッピングし、夜間に行政が指定した仮置き場に移動させる、という連携作業が行われています。

③長野県・長野市・NPO支援チームとの意見交換会

長野県庁の北澤さん、長野市役所の千野（たの）さん、長野県NPOセンターの山室（やまむろ）さん、小林さん、JVOADの元持（もともち）さんと、被災直後から現在に至る行政とNPO等との連携について、意見交換を行いました。千野さんを除く4名は、長野県災害対策本部被災者支援チーム内にあるNPO支援チームの構成メンバーでもあり、被災者支援のための官民連携を担っています。

NPO支援チームでは、「ONE NAGANO（みんなで復興に取り組もう！！）」という合言葉の元、災害ボランティアセンターを通さないボランティア団体の受入と被災者ニーズとの仲介を行っています。

④清流（すずか）市の川口清神

千曲川の河川敷にて、他のボランティアと一斉清掃を行いました。りんごの木は河川敷にもたくさん植えられています。浸水により漂着した災害ゴミを手作業で撤去しながら河川敷を歩きましたが、流木に挟まれたゴミは手作業では取れないものも多く、拾えたのはプラスチックの梱材等がほとんどでした。





＜参加者感想＞

●一人なら、行きたい止まりでいつか何かの機会があればというレベルで終わっていた。参加するきっかけができてよかった。

●現地の方との情報交換の場があったことで被災地の状況を より知れて勉強になりました。

●ボランティアの配置が必要なところとそうでないところがあったようなので受援体制を整えることの難しさを感じました。

●後の近い皆さんの考えにとても刺激を受け、仕事のモチベーションアップにも繋がりました。直前まで迷っていましたが、行動して良かったです。

●震災作業にはNPO法人等、行政以外の協力が不可欠である事を再認識できました。また現地まで ボランティアに来てくれた方に対して活動内容をしっかりと説明する事で作業効率が格段に変わってくると思うので、マネージメントする側の対応能力などの様に向上させていくことも課題であると感じました。

●正直、今回の呼びかけを受けるまでは、もっと復興は進んでいるものと思っていました。時間が解決するものだろうと、他人事のように思っていました。被災地に行って、純粋に人手が求められる場面は多くあると思いました。

●思うの人に活動を伝え、次回は一緒に参加してもらえるよう声かけしたい。

令和元年12月20日　参加者一同

災害と防災がつながるプロジェクト　活動レポート（速報版）

～台風19号被災地支援　災害ボランティアの活動～

【目的】令和元年12月17日(火)～19日(木)

【参加者】高知市地域防災推進課　中山、山本、北川

【参加者構成】20代/女性3名

| 日付 | 時間 | 行程 |
|---|---|---|
| 12/17 | 8:40 | 高知空港発 |
| | 14:00 | 長野駅到着(JR) |
| | 15:00 | ① 五沼地区　視察 |
| | 16:30 | ② 県・NPO 意見交換 |
| 12/18 | 10:00 | ③ 豊野ぬくぬく亭サロン活動 |
| | 16:00 | ④ ONE NAGANO 運営支援 |
| 12/19 | 9:00 | ⑤ 県 NPO センター運営支援 |
| | 13:00 | 長野駅発 |

【活動内容】

① 民沼地区　視察

民沼地区(千曲川決壊地点周辺)を歩いて発災から2ヶ月が経過した町の様子を視察しました。至る所にあるりんご農園で良っ赤なりんごが泥に塗れて落ちている光景から、私たちはその被害の実態を目の当たりにしました。住宅は概ね1階部分が浸水被害にあっており、生活者の人影はありませんでしたが、工事や農地整備の作業にあたる人や車が目立ちます。今はコンビニが営業しており物資拠点となっている様子で、道路は舗装され、バスやタクシー等の交通機関は今週末には運行が再開するようです。





② 情報収集及び意見交換(長野市)

長野県 NPO センター事務局長であり、長野県災害対策本部災害ボランティア担当 NPO 支援チームの山室さんと長野県危機管理防災課の宮本さんから、被災地の実態についてお話を聞くことができました。

＊避難所について

発災当初は特に豊野西小学校と北部スポーツレクリエーション公園（人工芝のある屋外避難所）が過密状態でしたが、2ヶ月たった今はほとんどが閉鎖し、最後の避難所は長野運動公園のみ（12月20日閉鎖予定）。現在、応急仮設住宅への入居者数はやっと6割に達したようです。(115戸中70戸入居)

＊自主防災組織の活動

避難行動については、過去に千曲川流域で発生した大洪水の経験から水害への備えとして繰り返し避難訓練を実施したり、住民主体のハザードマップを作成していた事例があり、早めの自主避難に繋がっていたとのこと。一方、避難所運営については、自主運営はほとんどなく(行政主導でした。原因としては、避難所運営の主体が住民であることの意識付けが遠んでいなかった中で、さらに避難の際に周辺住民が分散したことがあるようです。

＊高知市では・・

今後の復興について話題に上がり、高知市の「下知地区防災計画」の取組を紹介しました。ワークショップを用いて住民同士が話し合いを重ねて復興計画を考える手法は、日頃から実施している長野県 NPO センターの活動とも重なるものでした。



③サロン活動（豊野町　まちの緑側ぬくぬく亭）

＊ぬくぬく亭について

令和元年12月12日にオープンしたばかりの住民交流スペース「まちの緑側ぬくぬく亭」を訪問しました。豊野区では、千曲川の堤防決壊で自宅を離れた人も多く、現在は